

話題項目の紹介（石油ショック・省エネ

—— 来たれ！石油危機 ——

昨年夏のイラク軍のクウェート侵攻により「第三次石油危機」が起きるのではないかと、言われている。

「世界の石油基地」であるペルシャ湾で何か事件が起こる度に、世界経済に深刻な危機をもたらしてきた。

一九七三年の第四次中東戦争では一バレル当たり三ドル台だった原油が四倍の一二ドルになり第一次石油危機が起こった。

七九年のイラン革命のときは、当用買い（スポット）の原油が四〇ドルまで暴騰して二度目の危機となった。

今回の事件によっても、国内では九月一七日に一齐にガソリンの値段が上がり、小売で一リッター当たり一〇円以上の値上がりになった。

過去の石油危機では、様々な怪情報（乱れとび、洗剤やトイレット・ペーパーの買い占め等が起こった。少し前までは当時のことが話題になると、他人事のように笑っていたのが、今では自分が怪情報の拾捨選択をしなくてはならないとは。

二度の石油危機を経験してきたわが国の対応は比較的楽観視している。現実の値上げ問題に対しては不平が出てはいるが、これを深刻なエネルギー問題として取り上げてはいないようだ。国家も「一四二百分の石油備蓄がある」として「危機」はないと言っている。

—— 参照項目 ——

- 【経済】 石油危機
- 【世界】 石油問題
- 【世相】 節約
- 【科学】 資源・エネルギー問題

・ 輸入に頼る日本 主要国のエネルギー 供給事情	週刊時事 1990.3.31 P 40~41
・ 「第3次石油危機 が来たら何を買い 占めるか？」	サンデー毎日 1990.9.2 P 195~197
・ 中東情勢と石油の 今後を読む（大内 幸夫／山口恒平）	Weeks 1990.10 P 116~119
・ THE DATA ILLUSTRATED 石油消費量	THE 21 1990.10 P 54~55
・ アラブが世界を揺 する	アエラ 1990.10.1 増刊 全冊特集
・ 政府予測は甘すぎる 緊急警告 石油危機 最悪のシナリオ	週刊文春 1990.10.4 P 40~41
・ 長期化の気配濃厚の 中東危機。私たちの 生活はどうなるの？	MORE 1990.12 P 390

実は七三年一〇月にも資源エネルギー庁が同様の説明をした一週間後に国際石油資本（メジャー）各社が、日本向け原油供給の一〇パーセントカットを通告して、第一次石油ショックが始まったのだが…。

日本は世界で第三位の石油消費国である。一次エネルギーの石油依存度が五五、九％と高く、その石油の輸入依存度は九九、六％である。主な輸入先はサウジアラビア、シンガポール、クウェート、アメリカなど。今回の事件により、クウェートとサウジからの輸入があまりなくなった。二国合わせると

供給全体の二二％に当たり、国内の増産ではムリ、冬になれば他の国からの買い付けも難かしくなり、無理に買えば、また日本の対外的な評価が下がるだろう。

最近では環境保護活動などの立場から省エネが叫ばれているが、石油問題も含めてさらなる省エネ対策が必要であらう。

先日、民放テレビ局がエネルギー庁の提案を受けて、深夜放送を午前三時から五時の間中止することになった。しかし、それは逆にかねてからの異常気象により気温が高いために、一部の私鉄では一月になったというのに冷房を入れている所があった。

現在の日本人の生活を見ているとエネルギーの無駄が多すぎる。どうせなら、石油危機がもっとずっと深刻なものになり、省エネをどんどんすればいいのだ。

まずガソリンが高くなるから自動車が減る。交通渋滞は解決するし、駐車場問題もカタがつく。コンビニエンスストアは深夜営業を中止するから、夜中に歩く未成年がいなくなる。エアコンの使用を極力少なくすれば、都市内に排気熱がたまることなく、環境問題の解決につながる。

まるでいいことばかりである。洗剤とトイレット・ペーパーの買い占めをしるとは言わないが、これを機会にエネルギー問題も少し真剣に考えてみるべきではないだろうか。

第三次の石油ショックになってくれとは思わない。ただもう少し危機感が欲しいのである。

（鴨）